

X線防護衣を安全にご使用いただくために

X線防護衣の構造と、点検・検査の必要性

X線防護衣は、内部の遮へいシートを表面の保護シートで覆う構造となっています。遮へいシートは、ビニル系のシートに遮へい元素（鉛やその他の元素）を高比率配合して製造していることにより、保護シートと比較して物性的に弱い傾向があります。遮へいシートに損傷が生じて、外観からでは分かりにくい場合もありますので、下記の日常点検と定期的な透視検査を行い、防護能力の有効性を確認していただく必要があります。



X線防護衣の構造例

点検・検査の方法

1

1 日常の始業、終業時の目視・触覚による点検

目視点検

外観から損傷の確認をしてください。
また、遮へいシートが脱落している場合に
防護衣の裾が膨らんで見えることもあります。

触覚点検

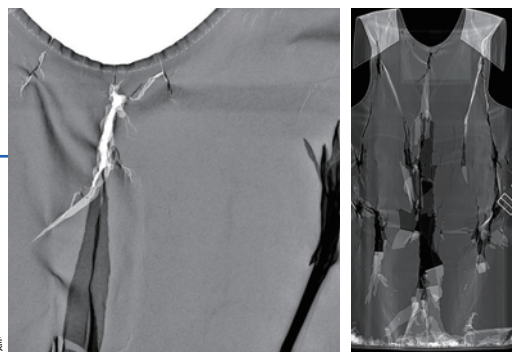
遮へいシートの厚みは1mm程度ありますので、
破損状態を指先で感じ取ることができます。

2

2 半年に一度以上のX線透視または透過写真撮影による検査

X線透視または透過写真撮影

防護衣を非破壊検査し、内部の遮へいシートの状態を
確認してください。



透視画像

CTスカウト画像

画像ご協力：
日本医科大学多摩永山病院様

**遮へいシートに損傷が確認された場合は、
被ばく線量の増大につながる恐れがありますので即時ご使用を中止してください。**

参考：「医用画像部門における品質維持の評価及び日常試験方法—第2-8部：不変性試験—X線防護具類」JIS Z4752-2-8:2005

このような保管や取り扱いを止めてください

度重なる「畳みジワ」や「押し付け」
は早期破損の原因となりますので
ご注意ください。また、保管の際には、
専用のハンガーやラック類に掛けて
ください。



畳み置き



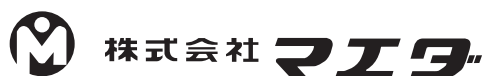
上に座る



機材などの角当て

点状斑（1mm程度以下の気泡や異物の混入）について

ご購入時のX線透視検査において、防護衣周囲を線取るミシン針穴（貫通穴）の透視画像と、よく似た鮮明度の1mm程度の点が確認される場合があります。弊社では十分な品質管理を行っておりますので、その点は遮へいシートを貫通する穴ではなく、遮へいシート製造の際に入り込んだ気泡や微小な異物（点状斑）です。製品に若干数見られる場合もありますが、社内品質基準及び「診断用X線防護用具 JIS Z 4831:2000 鉛当量試験の規定」に適合しております。



取扱店

営業部・経理部・工場

〒123-0845 東京都足立区西新井本町5-4-12

TEL.03-3880-8881 FAX.03-3880-8884

本社 / 〒113-0033 東京都文京区本郷3-11-9 TEL.03-3811-7315

<https://maeda-hagoromo.com>

本カタログは、2020年2月現在のものです。

記載の製品は、予告なく仕様その他を変更することがあります。

記載の価格には、消費税、荷造運送費、設置費は含まれておりません。別途申し受けます。

※本カタログの無断転載を固く禁じます。